

延文百首

進子内親王花色内陰十八枚薄下絵蝶鳥裏霞、高一尺

水のうへにもえてもきえぬ蛍こそ

風にうごかぬひかりなりけれ

詠百首和歌

尊胤

夏十五首

蛍

いまも又まどの光となりぬるは

たがあつめこしほたるなるらん

詠百首和歌

尊道

夏十五首

あつめける昔のまどのほたるにち

およばぬ跡も身をてらすらん

春日同詠百首和歌

左大臣藤原経教

夏十五首

蛩

まがひつる草葉の露をとどめおきて

よそにゆくこそほたるなりけれ

詠百首和歌

権大納言藤原実俊

夏十五首

貴舟河せぜに波よるしら玉や

思ひくだくる蛩なるらん

夏日同詠百首和歌

蔵人頭左中弁藤原時光

蛩

世世へぬる跡をばてらせわが身こそ

あつめぬまどのほたるなりとも